

令和6年1月4日発行（第187号）

こうじえん

普及センターだより

耕耳苑

いわてアグリ
ベンチャーネット
にも掲載中！

宮古農業改良普及センター
岩泉普及サブセンター
いわてアグリベンチャーネット

TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631
TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806
<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



年頭の御挨拶

宮古農業改良普及センター所長 荻内謙吾

新年あけましておめでとうございます。新しい年が皆様にとって、幸多き年となりますようお祈りします。

昨年5月に新型コロナが5類に移行し、コロナ前と同様の賑わいが見られつつある中で、飼料・肥料など資材価格の高騰が依然として続いており、農業を取り巻く情勢は厳しいものがございますが、農業者の皆様をはじめ関係機関・団体一体となってこの難局を乗り越えていかなければと強く心に刻んでいるところです。

社会では、食料の安定供給に加え、持続可能な農業生産への転換が求められておりますが、普及センターでは、生産性の高い農業の実現はもちろんのこと、時代の波を超えて地域農業が時代へとつながるよう、農業者の皆様の経営目標の達成に向けて支援を続けていきます。

今年の干支は、十干十二支では「甲辰（きのえ・たつ）」であり、「成功という芽が成長していき、姿を整えていく」といった縁起のよさがあります。あやかって農業でも成功という芽が成長していくことを願っています。

ブロッコリー産地検討会を開催しました

宮古地域でブロッコリー生産が始まってから10年以上が経過し、生産を取り巻く環境が変化していることから、産地の課題解決方策を検討するため、当センターでは12月21日にブロッコリー産地検討会を開催しました。

検討会では、ブロッコリー産地としての強み・弱みを自己診断し、所得向上に向けた取組について参加者でアイデアを出し合い、重要度・難易度・緊急性を評価しました。また、技術対策講習として今年度実施した品種比較実証や、根こぶ病・黒すす病の対策について説明しました。

当日は生産者17名、関係機関6名が参加しました。取組のアイデアとして、流通経費の削減や肥料等生産費の低コスト化が優先的なものとして評価されました。今回が初開催だったため、おおまかな取組内容を検討しましたが、具体的な取組手法等もっと掘り下げた議論をしたい、という意見もありました。

検討会がきっかけとなり、地域一丸となった産地の課題解決に向けた取組につながるよう、今後も支援していきます。



産地検討会の様子



産地の自己診断の様子

【担当：千葉(安)】

宮古地域肉用牛研修会を開催しました！ 牛群更新を考える～育種価を活用しよう～

育種価を活用した牛群更新を目的として、12月7日に令和5年度宮古地域肉用牛研修会を開催しました。研修会には宮古管内の黒毛和種繁殖農家、関係機関合せて13名が参加しました。

研修会では、岩手県農業研究センター畜産研究所種山畜産研究室にて、育種価を活用した牛群更新について講義を受けました。講義の際にはゲノム育種価について質問が寄せられ、理解が深まりました。



研修会の様子(牛舎見学)

その後は牛舎内を見学し、宮古市藤沢牧場産の「百合雲」などの県有種雄牛の姿を直接見ながら、血統や検定成績、育種価等について理解を深めました。講師を務めた藤村専門上席研究員からは、「牛群更新の際には、育種価のみに注目するのではなく、血統や体型等を総合的に考え、判断することが重要である」との話がありました。

当センターでは、今後も生産者や関係機関と連携し、高付加価値の牛肉生産に向けて取り組んでいきます。

【担当:伊藤(優)】

新規就農者等を対象とした 「農業簿記研修会」を開催しました！！

11月7日、15日に、管内の新規就農者等を対象に、就農後の財務管理に必要な農業簿記の基礎知識や簿記ソフトの使い方の習得を目的とした研修会を開催しました。

今回は、滝沢市経済産業部農林課農業経営指導マネージャーである丹野恵一氏に、教科書や問題集を使って仕訳の方法を学ぶ「基礎編」と、農業簿記ソフトを活用し決算書の作成までを学ぶ「実践編」の2回について、講師を務めていただきました。



「実践編」の研修の様子

参加者からは、「簿記の基礎的な部分について理解できた」、「将来就農した時に役立てたい」等の感想が寄せられ、充実した研修になりました。

今後も営農に関する基本技術研修会を開催し、継続的に新規就農者等への支援を行っていきます。

《お知らせ》

今年度は、1～2月に「土づくり研修会」、「病虫害防除研修会」、「青色申告に係る個別相談会」も開催する予定ですので、御興味のある新規就農者の方は、ぜひ御参加ください。

【担当:佐々木(花)】

「岩手県食の匠」に熊谷英美子さんが認定されました

食の匠認定証書交付式が11月21日に盛岡市において開催され、当管内からは岩泉町の熊谷英美子さんが「したみにぎり」で認定されました。

「したみ」とは“どんぐり”のことで、地域では「したみ」とも呼ばれています。岩泉町では古くからあく抜きした「したみ」を稗や麦、粟などの雑穀と混ぜて主食としたり、澱粉を餅にしたり、麴で発酵させてあんことして利用してきました。また、乾燥した「したみ」は保存性があるため、農家の屋根裏等に保管され、災害時の救荒食としても利用されてきました。

「したみにぎり」は、現在ではあく抜きした「したみ」とご飯を混ぜ、砂糖を加えたものとなっていますが、岩泉町では昭和30年代まで米の生産がほとんどありませんでした。当時はあく抜きした「したみ」を麴で発酵させて甘酒状にし、さらに「したみ」を加えて練り上げていました。

今回は70年前の「したみにぎり」を再現したものになっており、砂糖を使わず、麴の自然で上品な甘さが特徴となっています。



前列右から2人目が熊谷さん



認定料理「したみにぎり」

【担当:佐藤】



農閑期に進めておきたいこと ～機械のメンテナンス～



機械の稼働年数を延長し、メンテナンス費用を削減するために、農閑期のうちに、農業機械の日常点検・整備をご自身でこまめに行うことを検討しましょう。

1 洗淨

サビや腐食によるベアリングやオイルシールの劣化（オイル漏れ）等を防止するため、作業後の機械はきれいに洗淨して保管しましょう。また、エアフィルターやラジエーターの網等に付着しているホコリやゴミを、コンプレッサーやエアースプレー等で取り除きましょう。

2 注油とグリスアップ

摩擦による部品消耗、固着による作動不良を防止するため、機械の取扱説明書で注油部やグリスニップルを確認して、オイル注油（チェーン部、ワイヤー部等）、グリスアップを行きましょう。

3 オイル、冷却水の点検

オイル（エンジン、ミッション、油圧等）、冷却水（ラジエーター、リザーブタンク）の量や濁りを確認して、必要に応じて交換や注ぎ足しをしましょう。

4 動作点検

本格的な稼働の前に試運転を行い、作動不良や部品の消耗、異音、オイル・水・燃料漏れ等の異常が無いか確認し、可能な範囲で部品交換をしておきましょう。

作業中の機械故障は、メンテナンス費用の増加だけでなく、作業遅れによる収量低下にもつながるので、できる範囲で点検・整備の実施を検討しましょう。また、動力部や刈取部等、危険を伴う部位は、早めに機械整備を依頼しましょう。

【担当:戸田】

令和6年産の稲作に向けて

1 令和5年の生育経過

播種から移植期にかけて好天に恵まれ、活着は良好でした。しかし、6月第3半旬、第5半旬に日照不足となり(図1)、茎数はやや少なめ～平年並みとなりました。その後、幼穂形成期から成熟期まで高温・多照で推移したため、宮古管内の出穂期は平年より4日早く、刈取盛期は平年より6日早くなりました。

結果として、平年より多収となった一方で、管内の1等米比率は69.1%と平年より低くなりました。主な落等要因は、カメムシ害による斑点米や、登熟期の高温・強日射により発生した白未熟粒でした。

2 病害虫の発生状況

令和5年は、紋枯病と、ごま葉枯病の発生が平年よりやや多くなりました。また、カメムシによる斑点米被害は、割れ粃が多いあきたこまちでは吸汁害が多く、落等の要因となりました。

3 白未熟粒の発生要因

白未熟粒には様々な種類があり、令和5年は「背白粒」が多くなりました(図2)。背白粒は日平均気温が27℃以上、かつ強日射の条件で増加する傾向があります。また、常時湛水状態による水温の上昇や、作土の浅さ、地力不足等も背白粒の発生を助長します。

4 令和6年度栽培の注意点

(1) 土づくり

土づくりを行うことで、白未熟粒やごま葉枯病の発生を抑えられます。土壌診断に基づいた土づくり資材(堆肥、マンガン、腐植酸資材等)の投入や、15センチ程度の深耕(痩せた下層土が作土に混入し過ぎないように、年々少しずつ実施)を検討しましょう。

(2) 水管理

出穂後20日間の水温上昇(特に夜間)は稲体を消耗させ、白未熟粒発生の要因となります。間断かんがいは入水と落水を明確に分けて行き、常に湛水状態にならないよう注意しましょう。用水に余裕がある場合は、夜間のかげ流しかんがいや、積極的な水の入れ替えも検討しましょう。

(3) 病害虫防除

紋枯病が発生した圃場は、次の作も発生しやすい傾向があります。紋枯病は、登録がある箱施用剤により、省力的に防除が可能のため、使用を検討しましょう。

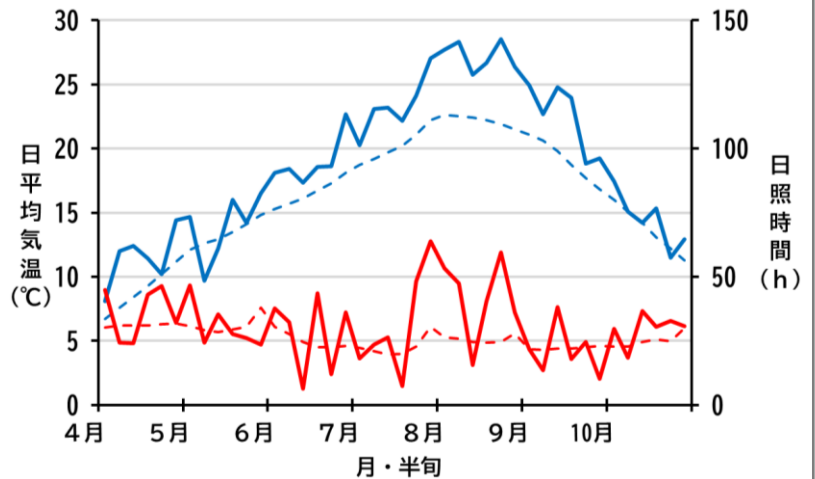


図1 令和5年の気象の推移
※上の折れ線が平均気温、
下の折れ線が日照時間、点線が平年値



図2 背白粒(矢印)

【担当:戸田】

編集後記 今号から、視覚などにハンディキャップを持つ方にも読みやすいとされる字体に変更しました。作成している当方もまだ目が慣れていませんが、今後もより多くの方にとって読みやすい紙面づくりに努めていきたいと思っております。お気づきの点は職員あてお知らせください。(千葉(彩))